

支部たより

発行

東北大学電気・通信・電子
同窓会東北支部

仙台市荒巻字青葉
電話 22-1800

発行責任者

高野知彦

(題字 高野知彦氏)

同窓会会則を制定

支部結成の促進はかる

四三年度東北支部総会

昭和四三年度の同窓会東北支部総会は、昨年三月十日仙台電々会館において、永井会長はじめ二十余名の会員が出席して開かれた。席上、同窓会本部幹事より同窓会会則案が提出され、審議の結果、永井会長の承認を得て可決された。

従来、会則のないのが特徴とされていた本同窓会であるが、支部結成の際、会則がないと不便であるとの声が、各地で高まっており、このため、役員会で審議の結果、同案を提案したものである。また、同時に、支部幹事より同窓会東北支部会則案が提案され、大筋については満場一致で可決された。そのほか、昭和四三年度支部会計収支決算報告が提出、可決され、次いで四四年度の役員として、支部長に高野知彦(電気工学科教授・昭和六年卒)、庶務幹事に曾根敏夫(電気工学科助教・昭和三年卒)、会計幹事に山之内和彦(電気通信研究所助教・昭和四四年卒)の三氏が選出された。

「東北大学電気・通信・電子同窓会会則」

- 第一章 総則**
 第一条 本会は東北大学電気・通信・電子同窓会と称し、東北大学電気系同窓会と略称する。
 第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて向上発展を期するを目的とする。
 第三条 本会は本部を東北大学工学部電気系学科内に置く。
 第四条 本会は次の会員によって組織する。
 第五節 役員
 一、会長 一名
 二、幹事 若干名
 第六節 会長・幹事は総会の議を経て会員中より推薦する。
 第七節 役員は次の通りとする。
 一、会長は本会を代表し、総会及び役員会を招集し、会務を統轄する。
 二、幹事は会長を補佐し、会務を処理し、会員相互の連絡に当たるとともに、

「支部便り」創刊号に寄せて

電気・通信・電子同窓会長 永井健三



永井会長

生の大多数は、京浜地区に就職して、東北地区に残る同窓生は少ないのであるが、いまや電気科開設五〇年なので、この長年の間に、相当数の同窓生が東北支部の会員として残っている。そして、母校に籍を置く者以外は、母校を日夜案じながらも母校の事情にうとく、先生方のうごき、研究室の動向もわからず、同窓各位の消息もあまりよく知らないのが実情である。今回の「支部便り」は平山先生の逝去を同窓会員が持ったのだがそれは大したことはなかったと思うのだから、この編集には相当の手間と時間を要し、大学のいる僅かな人間がやるのだから厄介な仕事だった。このガリ版同窓会便りは、それでも数年続いたが、雄山さんの阪大転出や、一方、戦前で大学もせわしくなったので、自然消滅してしまった。爾来三〇年、母校と同窓生を結ぶ印刷物はなかったが、今回、東北支部の企画によって、「支部便り」として復活し、東北支部同窓各位と母校とを結ぶべきなができることはよろこばしく、大きい期待をもつ次第である。なお、これが長年続くことを希望してやまない。

「支部便り」を作られる方々のご苦勞をしのびつつ、今後の「支部便り」の発展を祈るものである。(東北学院大学工学部長・大正一四年卒)

- 本会の経理を行う。
 第八条 役員は任期は二年とする。但し重任を妨げない。
 第四章 事業
 第九条 本会は第二条の目的を達するために次の事業を行う。
 一、総会を年一回開催する
 二、会員の名簿を発行する
 三、新入会員の歓迎会を毎年三月末に行う。
 四、その他本会の目的を達するに必要とする。

東北大学電気・通信・電子同窓会会則

- 第一条 本会は東北大学電気・通信・電子同窓会東北支部と称し、東北大学電気系同窓会東北支部と略称する。
 第二条 本会は会員相互の親睦を図り、同窓会本部の事業に協力援助することを目的とする。
 第三条 本会は事務所を東北大学工学部電気系学科内に置く。
 第四条 本会は東北大学電気・通信・電子同窓会の会員のうち東北地方に在住するものおよび役員会において承認を経た者によって組織する。
 第五条 本支部には次の役員を置く。
 一、会長 一名
 二、幹事 若干名

たことはなかったと思うのであるが、この編集には相当の手間と時間を要し、大学のいる僅かな人間がやるのだから厄介な仕事だった。このガリ版同窓会便りは、それでも数年続いたが、雄山さんの阪大転出や、一方、戦前で大学もせわしくなったので、自然消滅してしまった。爾来三〇年、母校と同窓生を結ぶ印刷物はなかったが、今回、東北支部の企画によって、「支部便り」として復活し、東北支部同窓各位と母校とを結ぶべきなができることはよろこばしく、大きい期待をもつ次第である。なお、これが長年続くことを希望してやまない。

「支部便り」を作られる方々のご苦勞をしのびつつ、今後の「支部便り」の発展を祈るものである。(東北学院大学工学部長・大正一四年卒)

必要な事業を行

第六節 附則

第一章 会 計
本会の経費は入会費、会費、寄附金及びその他の収入に充てられ、その剰餘金は、本会の会計年度毎に始まり翌年度の初めに納入する。

電子同窓会東北支部会則

部長 一名
役員は支部総会の定員に充てられ、事務は支部長が之を執行し、幹事は支部長を補助する。
第一〇条 本支部は支部会費を以て活動するものとする。

同窓会の近況

一年第一回卒業生同窓会
和四四年卒業生は、八回にわたって卒業生同窓会を開き、その間学科別同窓会、本会の名称変更、改められ、会費増加し、本年度は、東北支部は長谷川一氏（日本通信協力、昭和六年卒）、北海道支部は川上隆夫氏（STV、昭和八年卒）、大阪支部は小池勇二郎氏（松下電器昭和六年卒）である。

43年度会計報告
収入
42年度繰越金 34,546円
入会費 49,600円
歓迎会費 29,200円
43年度会費 68,600円
替利 1,129円
振替 183,075円
支出
歓迎会費 77,720円
集金手続料 6,380円
謝事印刷送付金 2,000円
事務用代金 850円
印刷送料 4,400円
本部納入金 11,145円
次年度繰越金 10,000円
合計 183,075円

総合整備計画、大学紛争

東北大学の近況

二村 忠 元

（一）東北大学の概況
本学は、農科大学（明治四〇）、理科大学（明治四四）、医科大学（大正四四）という順序で、明治四〇年に創立されたのであるが、その後、農科大学は分離さ

おかれ、昭和四〇年には歯学部が設置された。
以上が東北大学の小史であるが現在の構成、職員・学生数などを一覽表の形で次に示す。教職員、学生併せて約一八、〇〇〇名、講座数約四六〇と、昭和一〇年頃の全講座数約一〇〇に比較して、全く隔世の感がある。年間通常総予算は、仙台市のそれとはほぼ等しく約一五〇億円となっている。また昭和三六年に計画が始まり、現在進行中の東北大学総合整備計画は工学部の青葉山移転がほぼ完了し現在、理学部が移転中である。そして、これが完成するのは数年後と思われる。片平地区（昭和四五年二月より片平二丁目）は、既存の研究所と大型計算機センターに加えて応用情報学研究所が、また、青葉山地区には薬学部が加わる予定である。そして、大学本部および文科系学部はすべて川内地区に集まることになっている。

Table with columns: 部局別, 学 科 数, 教 員 数, 学 生 数, 卒業生数. Rows include departments like 文学部, 教育学部, 法学部, etc.

（二）紛争の概略
それまでも、反代々木系学生の動きはあったのであるが、封鎖という形で表に出たのは昨四四年六月五日が初めてで、その前日、記念講堂で行われる予定であった、市民の自動車を焼く等の過激行動以来、その

電気系の近況

八田 吉典

工学部が青葉山に移転してから早くも満三年に近い月日がたった。移転当時、交通の不便、水の不便などいろいろ問題の多かった青葉山キャンパスも、どうやら住居(すまい)としては落ち着いてきた。しかし、多聞にもれず、当工学部にとっても、本年度は大学紛争の中で大きくゆれ動いた年であった。本年度の電気系の主任教授は、電気が麻生教授、通信が清水教授、電子が小生(ただし都合により去る一月から松尾教授と交替)で、小生が最年長だということ、まとめて報告を書くことになった次第である。

昨年三月、工学部教授会は、原子核工学科問題に終止符を打つ処置をとった後、前田学部長が病気のため、河上学部長(事務取扱)に代わるなど、緊張した雰囲気の中にも、電気系は平常通りの状態を続けたが、五月二七日、電子工学科菊地正教授の自殺という誠にいたましい事件が起こった。ご承知の通り菊地教授は徹底的に生真面目な方で、大学紛争のおこるずっと前から「大学とは何か」「大学はどうあるべきか」などといったことを深く考え、立派な識見を持つておられた。そして近頃の大学紛争にからんだいろいろの現象をみて、持前の妥協を許さぬ厳しさからなやみぬき、身心ともに非常につかれておられたようである。先生は遺書も何も残さなかつたので、小生としては種々憶測することはつしみたいと思いが、先生つらぬかれた教育者としての生涯を、われわれは決して忘れてはならないと自ら深く戒めていた次第であった。その後行なわれたこ

息のための育英資金募金に對して、同窓生の皆さんから非常な協力をいただいたことを、友人の一人として厚く御礼申し上げます。

六月から八月にかけては、大学立法問題のため非常に緊張した毎日が続いた。そして八月三十一日、またまたいたましい事件がおこった。それは、電気四年生久保田文彦君の自殺である。同君は工学部学生自治会の副委員長をやっていた学生で、過労がわざわいしたらしく、いそいでかけつけられたと両親のいたましいお姿を忘れることはできない。

秋にはいり、東北大学の紛争も次第に複雑な様相を呈するようになり、十月一日に工学部管理棟の封鎖がおこった。この状態は、一月二三日の機動隊導入まで続いたが、この間、電気・応物系では、学部長はじめ管理棟の全住人に部屋を提供するといったようなことがあった。

海外合

昨年、工学部の研究を推進した。昨年は、東北大学の紛争も次第に複雑な様相を呈するようになり、十月一日に工学部管理棟の封鎖がおこった。この状態は、一月二三日の機動隊導入まで続いたが、この間、電気・応物系では、学部長はじめ管理棟の全住人に部屋を提供するといったようなことがあった。

現在では、少なくとも外見は全く平穏で、四年生は全員卒業研究にふろふういて頭張っている。しかし勿論、教育をあずかるわれわれにも、また学生にも、重要にして大きい問題が残っている。

その外のニュースとしては、南実験棟の前に、液体ヘリウムサブセンター(約四〇坪)が夏前に完成すること、また工業教育養成所の新設と関連して講座増があったために、北実験棟に隣接して四五〇坪の増築計画が進行中といったことをあげておく。(電子工学科教授・現電気系運営委員長)

電気通信研究所の昨今

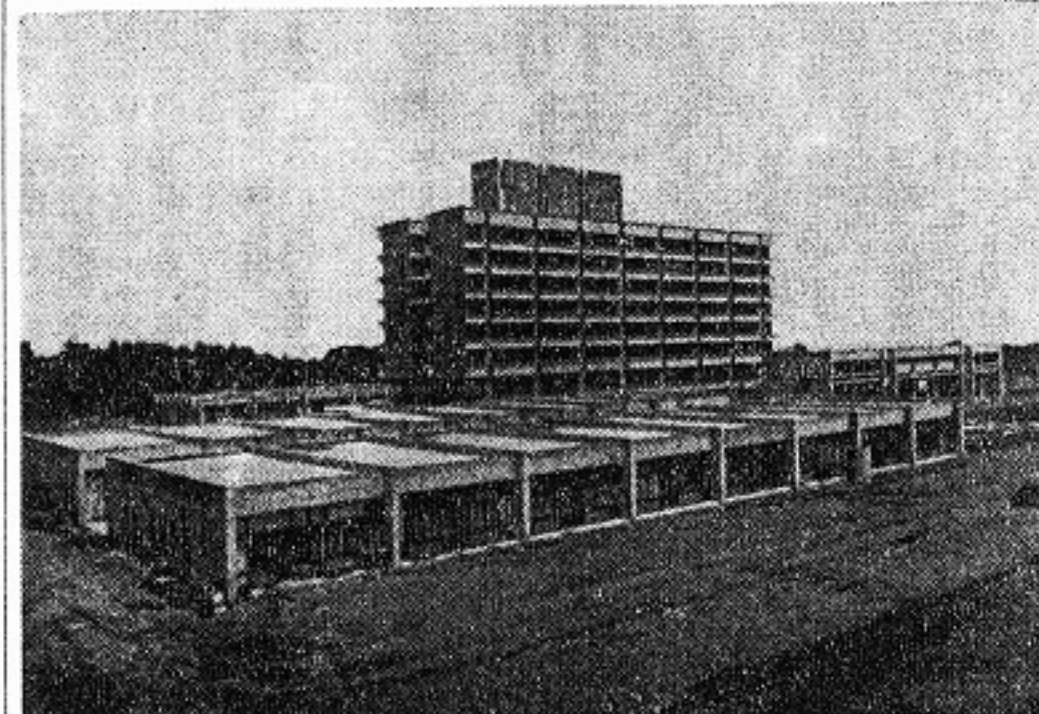
菊池 喜充

卒業生の殆どの方が、電気、通信および電子工学科と同様の親しみをもって下さる電気通信研究所も、今年、創立三十三周年ということになる。最近のエレクトロニクスの進歩と、それに関係する研究に対する社会的要求に応え、本研究所の部門数は、昭和四十四年度新発足のプラズマ電子工学科を加えて、十九部門という大世帯に成長した。時代の流れは、このように研究所を大きくし、研究設備を充実させるだけでなく、一昨年末の所謂大学問題という形でも、我々に種々の影響を及ぼして来ている。しかし、本文は、同窓会支部便りの創刊号にということであるから、まず通研の紹介ということから書き始めることにしよう。

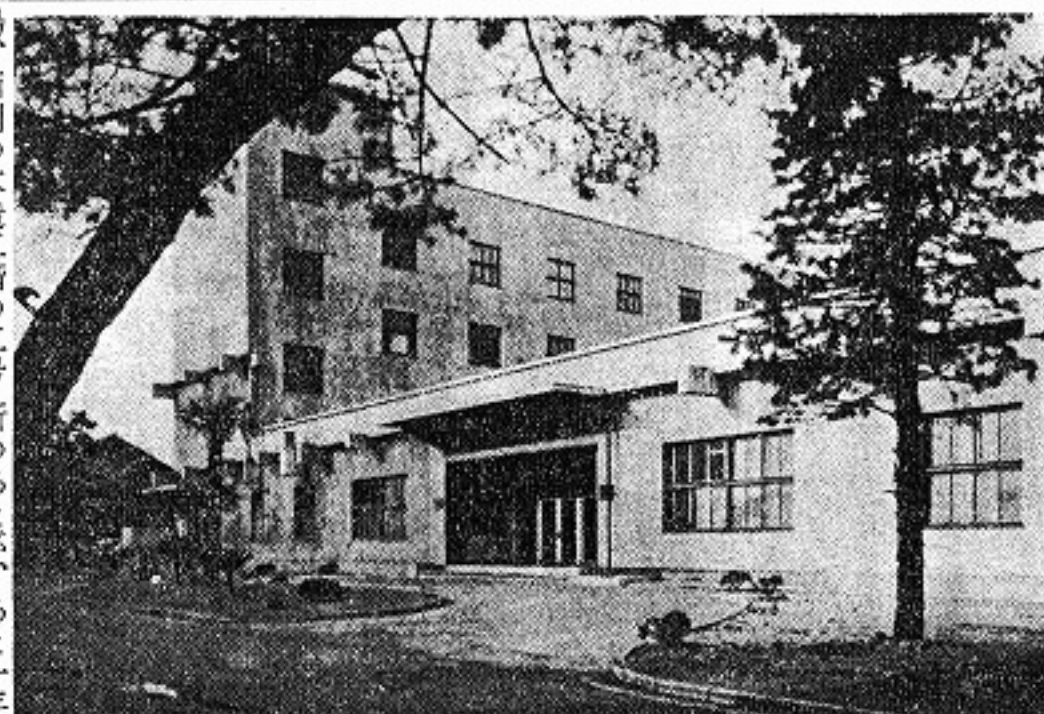
通研の職員は、専任教授十四名、専任助教教授十五名、併任教授二十二名、併

任助教教授二十一、その他を入れて所員総数六百八十八名に、さらに、大学院学生九十八名、学部学生七十三名、研究生十六名というところになる。教授の欠員は、将来の通研の姿を考え、電気系三学科とも協調して選考中で、順次、最適任者によって補充されて行く見込みである。十九の研究部門の他に、付属施設として、格子欠陥解析室、付属工場があるが、すでに内部のやりくりで発足している結晶育成実験施設も新年度からは法制的に認められ、物性関係の研究推進に大きな役割を果たす下地が作られることになっている。

昔の通研は建物を持っていないが、現在は、旧工業専門の跡の所謂南六軒丁地区に四階建二棟、延べ約二千二百坪の大きな建築物と、その東側平屋の結晶育成実験施設、南側の付属工場、西側の木造二階の二号所(のち、あと一年以内館等となる)がある。これに全部通研で使えるようになり、目下、改修工事中である。この建物(約千五百坪)が使えるようになれば、今まで各研究室に散らばっていたいたった面積の問題は、一応解決されることになる。



青葉山の電気・応物館



電気通信研究所

電気、通信、電子の三学科と通研とは、工学部の青葉山移転に伴って、物理的距離の隔離(約五千米)という大きな問題を抱えるに至った。そのため、一時は、通研教育による学部学生への講義は従来通り行なうとしても、学部学生の卒業研究を通研で行なうことは不可能ではなからうか、大学院学生が講義を聞いたに、研究をしたりというときに、大きな時間の損失を蒙り、研究、教育に支障をきたすのではなからうかと、非常に心配をしたのである。しかし、なればななで何とかなるもので、職員、学生の努力によって、今の所格別大きな支障もなく、三学科との協力態勢が続けられていると御報告できる現状である。

しかし、このような問題のみならず、大学における研究の役割や、マンモス化して来ている大学のあり方を検討し、常に新鮮な活動的な通研とならなければならぬという考えは、数年前からの通研教授会全員の一一致した意見であって、そのために、通研では独自の立場

で落ち 同窓の友

内田 英成

月下旬に、カナダ
タワで、国際電波
の第一六総会が開
で、これに出席か
一ヶ月余りカナ
リカを廻ってみ
振りの訪問なの
様子も随分変わ
らうと想像して訪
むしろ、東京や仙
り方のほうが激し
感じた。

の総会には、各国
百名ほどの代表が
なかなかな賑やかだ
北大学関係では、
那先生や永井淳先
（東芝）が、日本
ンバーとして出席
は、仙台程度の太
だが、都市計画が
届いていて、素晴
境のよい町であ
には、国立の立
所 (National Re
ouncil) がある。

丁度その時、一昨
本中の大学をゆす
い、昨年は、東北
り、昨年は、東北
当なあれ方をし、
皆様に大変な御
かけすることに
であるが、幸い、
は、通研と電気系
は直接の被害をも
かったものの、全
学生は、そのため
にわたる徹夜を含
な苦勞を重ねて来
た通研の中では、
員の意志を結集
も、社会に対して
た通研の使命を達
最も適した制度、
ら作るべく、努力
これ、大きな
通研内部、もし
学内のみで処理
もも多く含んで
少の年月は要す
えられるが、い
い姿を同窓生の皆
にかけ、安心して
るようになるも
電気通信研究所長)

か、永井先生、五十嵐
隆君(電波研)、また柴山
先生も、相づいでここに一
年留学された。稲場先生
も、レーザの研究のこと
で、ここを訪問されたこと
があるなど、この研究所は
通研には馴染の深いところ
である。このようなことも
あって、オタワに滞在中、
私は、この所員の方々に
大変お世話になった。
佐藤先生は、昨年三月以
来、スタンフォード研究所
で、文部省在外研究員とし
て、研究に従事して居られ
る。伝送回路関係の研究で
は、同所の若手研究者の指
導にも当たられるなど、こ
このスタッフは佐藤先生を
迎えたことを大変喜んでい
た。ここは大変設備のよい
研究所である。静かな雰囲気
がこめられて、研究にう
ちこめることは大変幸せだ
と、佐藤先生は述懐してお
られた。

にも又同君にも大変世話
になった。予め稲場先生
から連絡しておいて下さっ
たこともあって、同君は
Mr. Tennan 先生 (Radio
Engineering) & Racewell
先生 (Radioastronomy) の
分野では世界的に有名) に
私を引き合わせる役をつと
めて下さった。王君は、な
かなか英語が達者で、如才
がないところから、この
大学の先生方からは大変目
をかけられているようだ。
ブレイクスウェル先生は、彼
はグッドマンだと賞めてい
た。王君は、気軽で、親切
で、世話好きで、人ななで、
佐藤先生も、何か用を足す
上に難しいことがあると、
王君に命じて、手伝って貰
っているようだった。ほほ
えましい師弟の関係だと思
った。

このようなこともあつ
て、カナダ、アメリカの旅
は想出の多いものであつ
た。(東北工業大学長・旧
教官)

随 想

スタンフォード大学に
は、王興宗君(本
学修士修了、台
湾)が大学院に在
学中である。博士
号をとるつもりだ
そうである。私は
サンフランシスコ
滞在中、佐藤先生

追憶の 学生集会所

鈴木 憲郎

私は、昭和の初期、電気
工学科に学んだが、当時、
工学科の学生集会所は、北
門を出るとすぐ右向かいに
あって、学生達は、昼休み
や休講の時、実験の合同な
どによくここに集まって、
雑談を交わしたり、碁・将
棋・マジシャンに興じたり
(私もここでマジシャンを
覚えた)、夜は懇親会の会
場に使うなど、きわめて多
角的に利用されていた。集
会所の北側が晩翠軒という
食堂で、裏の縁側から「お
い、晩翠カレー一つ」と
大声でどなると、すぐ届け
てくれるという誠に具合の
よい便利なお店であつ
た。
電気工学科では、しばし
ば、この集会所を、先生と
学生の懇親の場を利用して

テレビ雑感

浅野 栄

何とはなしにテレビを眺
めてみると、独眼竜政宗公
のつづれた方の片眼がパツ
と開いて、「モウゲタヤ」と
おっしゃる。ティッシュペ
ーパーを作っているある会

社のコマーションナルである。
六二万石の禄を食んでいる
大名の口からは、とても出
てきそうもない言葉をぶ
つけて、視ている者をアツ
と云わせるアイデアであら
うが、反響は如何なもので
あろうか。一口にコマッシ
ナルと云っても、その制作
費は、フィルム一駒が一萬
円札に相当すると云われる
程、莫大なものである。
最近では、夜のゴールデン
タイムの番組が、殆んどカ
ラリ化されたので、カラー
テレビを持つ家が、全国平
均一〇パーセントを越し宮
城県でも、NHKのカラー
契約者の率が、九パーセン
トになろうとしている。
さて、この受像機は、ど
んなふうに使われているか
宮城県内で昨年一月に調
査したデータがあるので、
その一部を紹介しよう。
(聴取率調査なので、テレ
ビの利用目的のデータでは
なく、時刻に対する聴取動
向のデータである。)
朝、七時から八時の間に
スイッチをいれる家が、全
体の半分以上である。ウイ
ークデーの午前中は、テレ
ビを見ている家の五割程度
が、NHK(総合)にチャ
ネルを合わせている。ま
た、放送開始まえに、テス
トパターンとレコード音楽
を放送しているが、このレ
コードに対する問い合わせが
あるところをみると、この
音楽の愛聴者も、かなりあ
らう。
昼を過ぎると、NHKか
ら民放にダイヤルが廻され
る。この時間帯の民放番組
は、クイズプロと昼のメロ
ドラマである。これから察
すると、家庭の奥様方は、
よろめきドラマがまんざら
嫌いでもなさそうである。
夜、ゴールデンタイムは
くつろぎの一時でもあり、
肩のこらない民放がよく見
られる。そして、夜も一二
時前後になると、成人向き
の「一一PM」などが見ら
れる。この時間帯にテレビ
を見ているのは、全体の五
パーセント程度。しかし、こ
れは夜の夜ともなると、これ
が一〇パーセントと倍増
する。夜更かしする家が多く
なる。
かくて日曜の朝は、九時
過ぎになってやっと起き出
る。テレビのスイッチがは
いる。日曜にNHKを見て
いるのは、テレビを見てい
る家の約二割、あとの八割
も家で民放のプロを楽し
んでいる。面白いことに、
宮城県では、三船十段をは
じめ、神永など柔道界に有
名人を輩出している。せい
か、「柔道一直線」という
番組が、たいへん人気があ
り、根性ものの「サインは
V」なども、多くのファン
をもっている。日曜の夜、

七時台、八時台はNHKが
増加し、九時を過ぎると再
び、民放が圧倒的に見られ
る。日曜の夜は土曜と比べ
ると、割合早くテレビの
スイッチを切り、月曜に備
えて休むようである。
以上がおおざっぱに見た
テレビ視聴のパターンであ
る。
さて、日曜夜八時のNH
Kは、ご存じ「縦の木は残
った」であり、ゆかりの各
地では、早くもブームを当
てこんで、案内標識が散見
される昨今である。何せ、
全国の半分近い家が、この
番組を見ているので、天主
台にも各地から、観光熱に
浮かされたレジャー人間が
わんざと押しかけるであら
うが、口をあんぐり開けて
見上げられる貞山公は、つ
ぶれた片方の眼もカット見
開いて、「自分の足元をも
っとよく見ろ」と一喝され
るのではないだろうか。
(東北放送テレビ局・昭和
三一年卒)

お知らせ

◇四五年同窓会東北支部
総会は三月二日(木)午
後六時より、共済会館(仙
台市長刀町)で。
会費千円。
◇新入会員観迎会は、三月
二五日(水)午後一時三〇
分より、東北大学工学部電
気・応物館一〇一室(青
葉山)で。

後 記

同人会東北支
部会則に従い、
年一回支部便り
を発行すること
になったが、創
刊号が遅れたの
は、幹事の怠慢
であり、会員の
皆さんにお詫び
申し上げる。何
しろ初めてのこ
となので、どの
ような体裁にしようか、ど
のていどの記事を載せよう
かと、頭の痛いことであつ
た。会則を作成した前年度
幹事と顔を合わせる度に、
ぼやくことしきり。
何人かの同窓先輩に寄稿
をお願いし、どれだけ協
力をいただけるか心配であつ
たが、全員快く応じて下さ
ったのは編集部にとって幸
せであった。なお、筆者の
承諾なしに文体を一部書き
改めさせていたのだが、
時間に追われてのことだ、
ここで深くお詫び申し上げ
る。(T・S)